※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3014

令和５年度　数学科

教　科	数学	科　目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「新　高校の数学Ｂ」　（数研出版）						
副教材等	自作プリント等						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

問題演習に積極的に取り組むことで、計算力や思考力の向上を図る。
小テスト等を実施して各項目の理解度を確認するともに基礎理解の充実を図る。

２　学習の到達目標

数学Ｂの内容について理解することと基本的な知識および応用的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的の考察し、処理する能力を伸ばすとともにそれらを活用する態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数列・ベクトルの考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	数列・ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列・ベクトルにおいて事象を数学的に表現し処理する技能を身に付けている。	数列･ベクトルにおける基本的な概念を理解している。
評価方法	興味・関心・態度 知識の定着 レポート提出 定期考査	興味・関心・態度 知識の定着 レポート提出 定期考査	興味・関心・態度 知識の定着 レポート提出 定期考査	興味・関心・態度 知識の定着 レポート提出 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	数列	数列とその和	○				a:簡単な数列の規則性を発見できる。 b:記号Σの性質について考察できる。 c:等差数列や等比数列の一般項や和を求めることができる。 d: 等差数列や等比数列の一般項や和の意味を理解している。	レポート提出 出席 定期考査
		数列	○			○		
		等差数列	○		○	○		
		等差数列の和	○		○	○		
		等比数列	○		○	○		
		等比数列の和			○	○		
		和の記号Σ		○	○	○		
		階差数列		○	○			
後期	ベクトル	平面上のベクトル	○				a:ベクトルの考えを用いて図形の性質を調べるとき図形を位置ベクトルで捉えなおすなど多様な見方をしている。 b:ベクトルを用いて図形の性質を考察できる。 c:具体的な事象を平面上のベクトルで表し、数学的に処理できる。 d: 平面上のベクトルの演算と成分及び内積の性質や公式について理解している。	レポート提出 出席 定期考査
		有効線分とベクトル	○	○				
		ベクトルの加法・減法	○		○	○		
		ベクトルの実数倍	○		○	○		
		ベクトルの成分			○	○		
		ベクトルの成分と演算						
		ベクトルの内積		○	○	○		
		ベクトルのなす角		○	○	○		
		内積の性質		○	○	○		
		位置ベクトル	○	○		○		
		ベクトルと図形		○	○			

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。